

# CASBEE™ 新築[簡易版]

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2008年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb\_2008(v.1.4)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	京都産業大学理工学部棟	階数	地上3F、地下1F
建設地	京都府京都市	構造	SRC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域、市街	平均居住人員	721 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	2,600 時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2009年9月 予定	評価の実施日	2008年11月25日
敷地面積	259,078 m <sup>2</sup>	作成者	川島 克也
建築面積	1,842 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	6,369 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.2** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-3 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

#### Q 環境品質

Q1 室内環境 (Q1のスコア= 3.0)

#### Q のスコア = 3.1

Q2 サービス性能 (Q2のスコア= 2.7)

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 3.6

#### LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー (LR1のスコア= 3.6)

#### LR のスコア = 3.3

LR2 資源・マテリアル (LR2のスコア= 3.0)

LR3 敷地外環境 (LR3のスコア= 3.2)

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> 注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 既存建物との調和		<b>その他</b> 注) 上記の6つのカテゴリ以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。
<b>Q1 室内環境</b> 注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 中庭からの自然通風と自然採光の確保と水平庇による日射遮蔽	<b>Q2 サービス性能</b> 注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 高耐久性外装材として外壁にれんがが中空積みを採用	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 十分なオプンスペースの確保と既存樹木の保存
<b>LR1 エネルギー</b> 注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 LED照明器具の採用、窓に網戸設置	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。	<b>LR3 敷地外環境</b> 注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 屋外広告物照明なし

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency (建築物総合環境性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される